

事業報告書

団体名：地域共生ピアサロン ル・シェノン

1. メニュー名	<input checked="" type="radio"/> (1) スタート事業 該当するメニューを○で囲んでください <input type="radio"/> (2) ステップアップ事業 <input type="radio"/> (3) 市民連携事業
2. 事業名	そよ風のように街に出よう！ 地域共生社会実現に向けたがん患者等のためのピアツアー等運営事業
3. 実施場所	亀岡市下矢田町4丁目20-11 ル・シェノン
4. 実施期間	令和元年5月1日 ～ 令和2年3月31日
5. 目的と課題	支援金申請書に書いた、申請事業の目的と設定した地域の課題を改めて記入してください。
<p> 現在、生涯でがんに罹患する確率は、男性62%（2人に1人）、女性47%（2人に1人）に及んでいます。ふたりに1人ががんに罹患する時代に、がん患者や家族等が、心の悩みや体験等を語り合うこと、こうした場を自主的に提供している活動は、地域社会にこそ求められています。 </p> <p> 亀岡市を含む南丹地域には、がんの院外サロンが1件も無く、がん闘病経験のある私たちの出番だと感じ「地域共生ピアサロン ル・シェノン」を立ち上げることにしました。サロンの立ち上げもはじめてということもあり、不安もありましたが、NPO法人として亀岡に根づいた活動をしてきたメンバーとともに、チャレンジすることを決めました。 </p> <p> さらに、家庭と病院、家庭と施設など行動範囲が限られていた患者が、おひとりでも、ご家族やご友人とでも外出するきっかけを提供したいと思い、亀岡市支えあいまちづくり協働支援金事業のスタート事業に応募させて頂きました。 </p> <p> あっという間の1年でしたが、がんと向き合うすべての人が、地域社会で気軽に体験を共有し、共に考え、亀岡の自然と風土のなかで人生を満喫する機会を提供することにより、がん患者を含む市民としての生きがいや居場所を創出することになったと思います。 </p>	

6. 実施内容 実施した内容を具体的に記入してください。(実施スケジュール、会場、内容、講師名、参加者数、参加者の声、その他情報など)

【8月28日、9月24日、10月18日】

地域共生ピアツアー 研修

かめおかの魅力・社会資源を知るためのフィールドワーク～これからの活動について～

講師 坂田代表、栗山初美さん、友永事務局長

会場 下矢田町 ル・シェノン、篠町 舞舟、下矢田町 HOPE CAFE

参加者数 12名

【10月24日、25日】

地域共生ピアツアー 告知

亀岡祭りブース出展・準備

亀岡祭りブース出展

協力 難波山鉾連合会

会場 矢田町 難波山鉾横

参加者数 40名



【11月9日、16日、30日】

地域共生ピアツアー (外出支援)

京都府がんサロン・ピアサポーター養成講座の告知・参加

会場 京都市 京都市立病院、京都大学附属病院、民医連中央病院

参加者数 3名



【12月1日】地域共生ピアツアー 講演会

ネイチャーセラピー&ピアツアーについて

講師 浮世満理子さん

会場 下矢田町 ル・シェノン 参加者数 5名



【12月24日】地域共生ピアツアー (外出支援)

応挙寺で学ぶマインドフルネス

講師 中道高志さん

会場 曾我部町 金剛寺 参加者数 10名



【3月17日】地域共生ピアツアー 研修

これからのピアサポート・ピアツアーについて

講師 メンバー

会場 下矢田町 ル・シェノン 参加者数 5名

【参加者の声】

- ▶たくさんの人が集まる場よりも、少人数ですが同じ経験をもつ人たちと交流できたことがとても嬉しかったです。
- ▶亀岡に住んでいて訪ねたことのなかった場所に行くことができ、人には話しにくい家族の話をできて良かったです。
- ▶地域をめぐるピアツアーや、地域のなかで交流できるサロンも続けてほしいです。

7. 成果と課題	事業の実施により、課題解決がどのように図られたのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、事業の効果や成果と課題を数値、具体例などを用いて具体的に記入してください。
----------	---

本事業計画で目指した「がん療養に亀岡市の資源がどのように活かしていけるのか」というテーマに基づき、がん患者や家族が安心して外出、参加できるピアツアーの企画を実現することができました。

亀岡の歴史的な行事への参加等を通して、参加者同士の交流、学びを深める機会を創出することにより、より多くの方が、慢性疾患としてのがん療養に焦点をあてた「健康長寿・幸せのまち亀岡」の「地域共生デザイン」についてイメージをもって頂けたのではないのでしょうか。

ピアツアーの参加者数については、デリケートな課題を扱うことから、参加人数の制限をしましたが、さまざまな感染症対策の観点からも、たくさんの参加者を目指すよりも、慢性疾患や高齢の方、抗がん剤による闘病をされている方がおひとりでも参加しやすい環境を提供できたことは、教訓となりました。

8. 今後の展開	事業の実施成果と課題を受けて、今後の事業展開をどのようにされるのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、記入してください。
----------	---

今後は、外出が困難を極めるがん患者さんやご家族を中心に、在宅や病室からでも、がんのピアサポートや映像によるネイチャーセラピーを提供できるシステムやカウンセラーの養成講座、SNSカウンセラーの養成講座を開講し、亀岡市におけるがんの緩和ケアや地域・在宅での療養を支える仕組みを考えていきたいと思えます。

9. 協働の効果	今年度の事業実施にあたって、他団体等と協働（協力）された事例がある場合は、その効果や今後の関わり方について、記入してください。
----------	---

【行政との連携】

京都府 健康福祉部との連携

がんのサロン・ピアサポーター養成講座を通して意見交換をしました。
南丹地域初となる院外サロン、外出支援の取り組みについて報告しました。

亀岡市 健康福祉部健康増進課との連携

活動実施にあたり、がん患者やご家族の外出支援、がん検診の啓発などについて意見交換をしました。

亀岡市 生涯学習部市民協働課との連携

主にきらり☆かめおかの掲載について、ていねいにご助言いただき、より多くの市民の方そして情報を必要とする方に広報することができました。

【当事者団体との連携】

NPO 法人ワーキングサバイバー京都、ピンクリボン大阪、京都府がん患者団体等連絡協議会の役員の方との意見交換をしました。

【各種事業所、企業、地域団体やNPOとの連携】

ゲストハウス舞舟、難波山鉾連合会、NPO 亀岡人権交流センター、全国 SNS カウンセリング協議会、株式会社アイデアヒューマンサポートシステム、全国心理業連合会の役員の方々と外出支援や心の健康増進、がんのピアサポートについて意見交換をしました。

さまざまな社会経験や疾病による闘病を経験されている当事者や企業の方々と意見交換させて頂き、かめおかの魅力や社会資源を再認識することができました。今後も、さらなる連携を深め、地域共生社会の実現のための事業提案をしていきたいと思えます。

最後になりましたが、亀岡市支え合いまちづくり協働支援金を活用させて頂き、このように事業成果をまとめさせて頂きましたことを、亀岡市民のみなさんにご報告ならびにお礼申しあげたく思えます。

